

たか、し

<http://www.suginami-school.ed.jp/takaido4shou/>

杉並区立高井戸第四小学校

夢に向かって

校長 加納 直樹

中東カタールで11/20～約1か月間開催されていた、2022FIFAワールドカップは激闘の決勝戦、PK戦の末、アルゼンチンの36年ぶり3度目の優勝で幕を閉じました。ドイツ・スペインという強豪国に怯むことなく闘いを挑み、逆転勝ちをして予選を突破した日本代表の躍進はまさに”ブラボー”でした。自分が大昔サッカーをしていたころからは考えられない、未来への『夢・希望』を感じずにはられませんでした。残念ながら目標にしていたベスト8には惜しくも届きませんでした。PK戦での敗戦に色々思うところはありましたが、思い出したのは、1994年のアメリカワールドカップ、ブラジル対イタリアの決勝戦でイタリアの至宝ロベルト・バッジョがPKをゴール左上に大きく外したシーンでした。そして、バッジョがのちに語ったとされる「PKを外すことができるのは、PKをける勇気をもつ者だけだ。」という名言です。

日本のサッカー史に歴史を刻むPK戦のキッカーに我こそはと手を挙げる勇気は称えるべきで、きっとゴールは今まで見たことのないくらいに遠く、小さく見え、キーパーは驚くほど大きく見えたのだろうと想像しました。

2022年、令和4年がもうすぐ終わります。

校長として高井戸第四小学校に着任してから1年と9か月、素直で朗らかな児童たちと、温かく協力的な保護者・地域の皆様と、真面目で一生懸命な教職員に支えられて、穏やかな気持ちで今日の終業式を迎えています。思い返せばたくさんのうれしいことや、楽しいことを高井戸第四小学校で経験させてもらいました。怪我や病気、けんかなど、様々なことが日々起こる学校で、子供たちの命に関わる大きな事故や事件がなかったことが何よりです。これも保護者・地域の皆様のお陰と感謝しております。

さて、あと10日で夢と希望がつまった新しい年が始まります。無限に続く時間という帯に結び目があるわけでもないのに、12月31日と1月1日では全く違う気持ちになるのはなぜでしょうか。そして、年の初めに、「希望」や「抱負」をもつ～思いを新たに、なんらかの「夢」＝めあてを描きながら新年を迎える～…暦が人間の歴史の中でつくられて以来、どれだけ繰り返されてきたことでしょうか。

「夢や希望をもつ」ということは、とても大切なことです。夢や希望があるのとないのでは、心の中の明るさが違います。夢や希望があれば、それを目標に努力できます。努力をすればそれが実現する可能性があります。あきらめてしまえば、可能性がなくなってしまいます。「希望をもつ」ということは、「あきらめない」ということでもあるのです。希望がもてれば、その希望を目標に変えて、努力すればいいのです。しかしそれは、言うほど簡単なことではありません。挑戦する勇気が何より必要です。

なりたい自分をもっている子供や目標に向かって子供は、前向きに取り組んでいます。夢や希望は自分を高めてくれるものともいえるでしょう。

いつも心が元気で、子供たちが夢をもち、その夢が実現できるように、高井戸第四小学校の教職員一同、来年も子供たち一人一人に様々な支援をしてまいります。

来年も変わらず、教職員、保護者、地域の皆様が互いに理解し合い、信頼し合い、協力して過ごせればと思っております。大人同士の温かいつながりは子供たちを幸せにできるものだと思っています。

最後になりましたが、本年も温かいご支援とご協力をいただき、ありがとうございました。来年もどうぞよろしく願いいたします。

よいおとしをお迎えください。